

# 到達目標

## 学習のための目標

**指導薬剤師が行うこと**  
 学生に「こんなことを行っ  
 てもらえば」という一例

**学生が行うこと**  
 「今日はこんなことをしま  
 しょう」という一例

計数・計量調剤【P 310】

**到達目標**

- 処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能)
- 錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。(技能)
- 代表的な医薬品の剤形を列挙できる。
- 医薬品の剤別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。
- 代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。
- 同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。
- 異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。
- 代表的な同種・同効薬を列挙できる。
- 代表的な医薬品の色・形、識別コードから識別できる。(技能)



指導薬剤師が行うこと

学生が行うこと

1. 指導薬剤師が行う計数調剤の方法を見学する。
2. 処方せんに基づいて計数調剤を行う。
3. 実物により医薬品の剤形を説明する。
4. 剤形別に使用法を確認する。
5. 特徴的な色、形をもつ医薬品を列挙する。
6. 代表的な医薬品の一般名（有効成分）と商品名（販売名）を対比して記録する。
7. 薬剤識別コード事典などを用いて薬剤の識別をする。
8. 指導薬剤師が準備した医薬品について、有効成分が同一である薬剤の商品名（販売名）をすべて列挙する。
9. 指導薬剤師が指定した薬効群（例：ACE阻害薬等）について、在庫医薬品の中から該当する医薬品をすべて選び出す。

評価の視点

1. 処方せんに基づいて、正確に医薬品の取りそろえができる。
2. 剤形の違いによる目的・使用方法を説明できる。
3. 有効成分が同じで商品名が異なる代表的な医薬品を列挙できる。
4. 指導薬剤師が提示した医薬品の実物をもとに、薬剤の識別ができる。
5. 代表的な同種同効薬のそれぞれの特徴や効果、使用目的の違いなどを説明できる。

**準備・参考とするもの**  
 当日までに  
 準備するもの

準備・参考とするもの

1. 処方せんを正しく読むことができる。
2. 自身の薬局の調剤手順・方法を説明する。
3. 処方せん（または模擬処方せん）に基づいて正確に行われているか確認する。
4. 医薬品の剤形について説明する。
5. 剤形別の違いによる使用法を説明する。
6. 品の中から特徴的な色、形の医薬品について説明する。
7. 品の中から、主な医薬品の一般名（有効成分）と商品名（販売名）を説明する。
8. の高い医薬品の色・形、識別コードを説明する。
9. コード事典などの使い方を説明し、実際に識別を体験させる。
10. 在庫医薬品の中から同一商品名（販売名）で規格が異なるものをいくつか説明する。
11. 在庫医薬品の中から、有効成分が同一で商品名（販売名）が異なるものをいくつか説明する。
12. 在庫医薬品の中から同種・同効薬を数種選び、各々の特徴・効果の違い・使用目的の違いについて説明する。
13. ジェネリック医薬品へ変更して調剤する時の対応について説明する。

1. 処方せん（または模擬処方せん）
2. 薬袋
3. 異なる剤形の医薬品（剤形が同じでも使用方法が異なる場合は、複数準備）
4. 色・形の異なる医薬品
5. 添付文書
6. 薬剤識別コード事典
7. 同一商品名（販売名）で複数の規格がある医薬品（実物）
8. 同一有効成分で商品名（販売名）の異なる医薬品（実物）
9. 同種・同効の医薬品 等

同一商品名で複数規格がある薬剤例



**評価の視点**  
 学生のどんな  
 点を見ていけ  
 ばよいか